

<恩納村内の慰霊塔>

	場 所	建 立 者
宇魂の塔	宇加地区	宇加地自治会
さざなみの塔	塩屋区	塩屋自治会
眞魂の塔	眞栄田区	眞栄田自治会
慰霊塔	山田区	山田自治会
仲魂の塔	仲泊区	仲泊自治会
慰霊塔	前兼久区	前兼久自治会
慰霊之塔	富着区	富着自治会
慰霊之塔	恩納区	恩納村
第二護郷隊之碑	安富祖区	郷護の会
第四十四飛行場大隊之碑	安富祖区	屋良ノ友ノ会

(1) 慰霊の取り組み  
現在恩納村内には10基の慰霊塔が建立されている。慰霊塔のある行政区では慰霊の日(6月23日)に自治会主催で遺族、区民参加の慰霊祭が行われる。恩納村の慰霊之塔では村主催で慰霊祭が行われ、村遺族会、各区の代表、関係者が参加している。安富祖子ども会では第二護郷隊之碑、第四十四飛行場大隊之碑がある敷地を慰霊の日に清掃し、その場で体験者のお話を聞くなど独自の取り組みを行っている。現在、郷護の会(第二護郷隊の戦友会)、屋良ノ友ノ会(第四十四飛行場大隊戦友会)は解散し、慰霊祭は行われていないが、遺族の参拝は引き続き行われ、うるま市の地蔵院によって祭壇が設けられている。

(2) 平和学習  
村内には自然洞窟であるガマ、住民避難壕、日本軍が建設した陣地、トーチカや護郷隊が破壊した橋などの戦争遺跡が残されている。それらの戦争遺跡や慰霊碑を回り、恩納村の戦争を知り、考える平和学習が行われている。2019年には安富祖中学校1年1組

5. 次世代への継承

理層内の汚泥などの有毒物質が流出口付近から検出された。米軍側は日米地位協定第4条の返還した土地の原状回復の義務を負わない規定を盾に、返還後に発見された問題として引き取りを拒否した。村内自衛隊基地で保管した後、返還から約18年後の2013年、日本の民間業者によって320トンに及ぶ汚泥は全面処理された。

恩納村には現在キャンプ・ハンセンの他、嘉手納弾薬庫地区があり、村面積の米軍基地が占める割合は29・2%である。自衛隊基地を含めると29・8%となる。

が戦時中の食事作り、戦争体験者へのインタビュー、慰霊碑前での平和の詩の群読、遺族会の方々への学習内容の発表など、一学期を通して学びを深め、沖縄県の第1回ちゅうちなー草の根平和貢献賞を受賞した。



安富祖中学校1年1組による平和の詩の群読

村内の小中学校では村内の戦争体験者や第二護郷隊の体験者からも体験を聴く機会が増え、フィールドワークも行われている。第二護郷隊をテーマにしたドキュメンタリー映画「沖縄スパイ戦史」が2018年に公開、全国各地での上映、恩納村での自主上映会によって、恩納村の戦争、少年兵のゲリラ戦が広く知られるようになった。

毎年6月から7月には恩納村博物館で恩納村史編さん係、教育委員会文化係による慰霊の日特別展が開催され、村内外からの来館者も増えている。

(瀬戸)

参考文献・参考史料

- ◇字恩納自治会「写真集 道 写真で見る恩納区のおゆみ」2007年
- ◇恩納村「恩納村誌」1980年
- ◇恩納村「恩納村誌 第一巻 自然編」2014年
- ◇広報おんな 2016年・2018年
- ◇沖縄県「沖縄の米軍基地」2018年
- ◇沖縄県「米軍基地環境カルテ キャンプ・ハンセン」2017年
- ◇三上智恵「証言 沖縄スパイ戦史」2020年